



全国曹洞宗青年会の 活動紹介(七三)

広報誌『SOUSEI』の特集企画

広報副委員長 信行 のぶゆき 一宏 いつこう

全曹青で年四回発行している広報誌『SOUSEI』では全曹青や加盟曹青会の活動を紹介する傍ら、青年僧侶ならではの目線で、これからの寺院活動のお役に立てるような特集記事を企画・掲載しております。この特集を作り上げる作業は、広報誌発行の三ヶ月以上前から動き出します。企画書を作成し、全曹青内部で協議を重ね、取材対象者の方にインタビューを行い、それらを文章にまとめ、校正作業を重ね、多くの人の協力を経てやっと誌面に掲載されます。

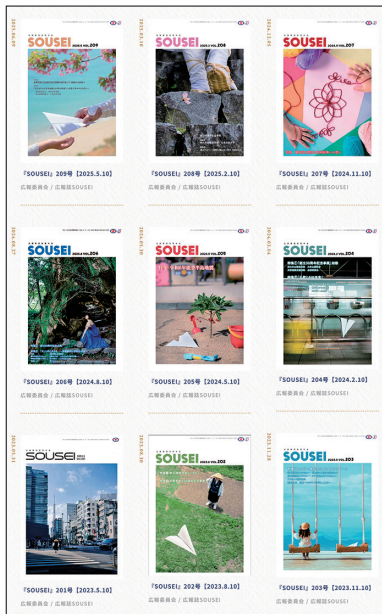
私はこれまで第一九五号「信仰というケアのかたち」、第二〇三



インタビュー取材の様子

号「ととのうく僧侶のためのセルフケア」、第二一一号「伝える言葉、残す想い」という三回の特集を担当させていただきました。

初めての特集では、信仰とケアの関係性について取り上げました。当時はまだ新型コロナ感染症の影響が強く、すべてオンライン取材でした。また、今まで取材をしたことも無ければ、しっかりとした文章を書く自信も無かったこともあり、執筆には苦労も多かった誌面を見たときの喜びは、かけがえない体験となりました。二回目の特集では前回の内容を補完する形で、人々に寄り添う僧侶自身の「セルフケア」に焦点を当てました。インタビュー取材に加え、全国の青年僧侶の皆さまにア



公式HP上の『SOUSEI』バックナンバー



●執筆者プロフィール
 信行一宏
 福岡県曹洞宗青年会 所属



※二次元コード

ンケートを実施することでより有益な特集記事とすることができました。この期は全曹青創立五〇周年を迎え、会内で通常会務に加え日々様々な企画が進められておりました。そうした状況が、青年僧侶にとっても重要な視点として「セルフケア」を題材に選ぶ一因となりました。

広報委員としての初出向から五年が経過しましたが、文章に対する悩みは尽きません。ただ文字を紡

ぐという想いを形にする作業の面白さは段々とわかってまいりました。またこの間、生成AIが大変な進歩を遂げ、執筆の環境が大きく変化する中で、人間の作り出す文章の良さや味などについて考える機会も増えました。そこで、三回目となる今期の特集では、「書くこと・伝えること・残すこと」

をテーマとし、文章への向き合い方や、書き残し続けることの大切さについて探求いたしました。

広報誌『SOUSEI』では今後も全国の青年僧侶が共に先達から学び、互いの気づきを共有していけるような誌面作りに励んでまいりますので、お手に取りご一読いただけますと幸いです。

●全曹青公式HP『般若』では広報誌『SOUSEI』のバックナンバーを公開しております。一覧ページへは二次元コードよりお進みください。